

日本クリスチャン・アシュラム連盟

イエスは 主なり



日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 '96. 3. 1 102



「わたしについて来なさい」

マルコ1:17

杉田 常夫

昨年9月22～23日、マシューズ博士を迎えて第29回関西アシュラムが、関西学院千刈セミナーハウスで開催された。わたしは6月なかばから体調を崩し、肉体の弱さを感じる中から出席したので、祈りの細胞ではグループの方々に、わたしの健康のためにお祈りをお願いしていた。10月に入って、そろそろ医師の手を離れられると期待していたところ、予期に反して4ヵ月近く入院生活を余儀なくされるに至った。これは主イエスが弟子たちに、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行って、しばらく休むがよい」（マルコ6:31）と言われたように、わたしに必要な休養を与えてくださったのだと受けとめた。

病院での朝7時起床、夜9時半就寝という規則正しい生活の中で、静聴の時間をたっぷりと与えられ、日頃読みたいと思ってつんどくで終っていた何冊かの本も読む時を与えられて感謝であった。

昨年も押し詰った12月26日、日頃心にかけて祈っていた一教会婦人のご主人が、同じ病院の同じ階に転院して来られた。数日前、入院先の病院へお見舞に伺った時、予想もしていなかったことで、その上「主人は洗礼を受けたいと申しております」との奥様の言葉に二度びっくりした。すぐ病室へお伺いして心準備をしてもらい、翌27日病床洗礼を執行させていただいた。

昨年はオウム真理教が起した凶悪な事件が次々と明かると出て、世間の厳しい眼が宗教全般に向けられるようになっていた。わたしは入院手続書類の職業欄に「牧師」と記入したが、看護婦や患者たちから好奇の目で見られていたようだ。周りにクリスチャンはひとりもない環境に置かれて、主は「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」（マルコ1:17）と語り掛けて下さった。

そうだ。この病院生活の中でも、イエスさまに従うことはできる。それをどんな風に表したらよいか。それを祈り求めつつ過ごしていた。そうしたら「人間をとる漁師にしよう」と約束された御言葉どおり、病院生活をしている弱さの中でも、主はわたしを用いてくださった。

この間、担当の看護婦さんたちから予想外の感謝や期待の言葉を受けるようになった。これは全く主のみわざであったと、み名をほめ賛えつつ、退院の日を待ち望んでいる。

(関西アシュラム委員・香里教会牧師)



スタンレー
ジョーンズ
コーナー

説教者・アシュラム創始者ジョーンズの生涯
J・マシューズ

半世紀前に、世界の偉人と言えはすぐに四人の人物の名が挙がりました。皆、傑出した人々でした。皆、平和をつくり出す人々でした。皆、深く、献身的に宗教的でした。皆、大いに尊敬されました。皆、修正主義の歴史家にひどく批判されたが、おおむね十字架の力によって、受けた偏狭な取り扱いを超えてきました。

一人はドイツ人、一人は日本人、一人はインド人、一人はアメリカ人でした。その中三人はクリスチャンで、一人はキリスト教に深く影響されたが、インド教徒でした。その名はアルバート・シュバイツァー博士、賀川豊彦博士、マハトマ・ガンジー、そしてE・スタンレー・ジョーンズ博士でした。私はこれらの四人の人すべてを知り、少なくともお会いする特権にあずかりました。彼らは当然、同時代人に尊敬されましたし、世界は彼らが生きていたために、よりよい所

となりました。彼らは皆多面的で、どう見ても目ばゆいほどの人々でした。

アルバート・シュバイツァーは多くの分野で優れていました。彼は哲学者であると同時に医者・秀でた音楽家であり、宣教師でありました。

賀川博士も他の三人と同様に何でもできる人でした。彼が優れていた分野の数を回顧すると驚嘆すべきものがあります。あなた方の或人々の助けを受けて、私たちはワシントンにあるウエスレー神学校に、三年毎に賀川セミナーを開くための基金を設定しました。それは、代々の神学生が、賀川の感動的な話を知る機会をもつためです。

マハトマ・ガンジーは“近代インドの父”です。彼は竹の棒より大きな武器で、英国の帝国主義の支配を負かすことができました。彼の非暴力の力説は、ごく限られた男と女の間のことから出て、あらゆる人間歴史の中に彼を位置づけています。既にのべた通りインド教徒でしたが、彼は因習的な宗教の境界を廢れさせる方法をもっていました。

E・スタンレー・ジョーンズはこの四人組の中に席を占めるに値します。彼は私たちの或者が信じているように実際、宗教的天才でした。彼は多くの才能、著作者、講演者、賢明

なカウンセラー、隣人の友となる能力をもっていました。しかし、とりわけ彼は宣教師―善い知らせの告知者―と思われることを好みました。ただの善い知らせでなく、福音の告知者として。

これらの四人は或る程度互いに知り合っていました。しかし、私が特に語りたのはスタンレー・ジョーンズに就いてです。もちろん、私は彼の娘と結婚したので、この人々の誰れよりも、彼をよく知っています。とりわけ、この度、私の日本滞在のきっかけは彼がつくったものです。

丁度四十年前ジョーンズ博士は日本でアシュラムを開始しました。彼はその運動が直ちに受け入れられたことを知り、日本人の良い反応を喜びました。思い起こすと、彼はその後十の歳月の間に十回もこの国に帰ってきました。彼は日本とその民を愛しました。そして此の国で彼に示された親切と思いやりを語ってやみませんでした。

スタンレー・ジョーンズの日本への関心はアシュラム運動を此の国で創設した時に始まったものではありません。彼は一九一七年にインドからの休暇で旅をして合衆国に帰る途中、この地を通りました。その後、彼は賀川博士と懇意になりました。その最初の出会いは一九一七年プリンスト

ン大学に於てでした。一九四二年、スタンレー兄弟を促して、合衆国と日本との平和を維持するために努力するよう働きかけたのは、賀川でした。

：スタンレーはワシントンの日本大使で、平和論者である野村堤督に接近しました。

：彼はニューギニアを日本の増大する人口により開発するために解放する可能性を、オーストラリア・オランダそして合衆国と探ろうとしました。これに対して、彼はかなりの関心をひき起こしました。

：彼は日本大使館の“平和”グループとルーズベルト大統領との間の橋渡しとなろうとしました。そして開戦派を押さえようとする天皇と直接連絡をとることを大統領に進言しました。

(白川訳)

アシュラム生活最良の友
アパ・ルーム

海老沢 宣道 編集

(年6回刊行の日々の糧)

国際的、超教派的、靈的な読物
価250円、〒90円、年2,040円(〒共)

申込先 ☎256 小田原市国府津3-11
振替口座 00110-7-193834 アパ・ルーム
電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来45年続行中

〈四十年の恵み〉

日本アシラムの歩み(一)

海老沢宣道

本紙の第百号第三頁に記載されたように、わが日本に於ける第一回のアシラムがスタンレー・ジョーンズ師によって開催、指導されてから、昨年は丁度満四十年の記念すべき年を迎えました。連盟は全国の四地区委員会の協力を得て、その記念特別集会を開き、創始者の女婿マシューズ博士夫妻を招へいして、久しぶりに再びその温厚な人格信仰による導きを頂き、約三八〇名の参加者が新生の恵みを受けたことは誠に感謝に耐えません。

連盟では記念事業として、この他にも出版事業を二つ立てていました。その一つは、創始者スタンレーの著作の中から『いかに祈るか』という小冊を翻訳刊行することで、これは白川・飯島両理事の努力により訳出され、全国から続々と注文を受けています。今一つの計画は『日本クリスチャン・アシラム四十年抄史』(仮題)を編集刊行することでした。しかし、これは諸般の事情のために、実現されなかったことは残念の至りです。そこで今回から本紙上に私の知る限りの資料によって、四十年の恵みを連載して、同信の友と共に主に向つ

て感謝の歌を捧げたいと思います。

さて、アシラムに就いて書こう

とした時、その前に博士が日本のために尽されたことや全国巡回伝道を始めて下さったことを書く必要を感じました。博士は戦前から日本の苦境を助けようと賀川豊彦その他の先生方と連絡して日米両国で大祈祷会を提唱、米大統領にも直接平和工事を依頼したりされましたが、不幸にして遂に大戦となり、日本の敗北となりました。それを見て心を痛められた博士は、インドその他の国々における豫定を変更して来日され、一九四九年二月から三月にかけて、東京その他全国の大都市を巡回伝道され、戦乱の痛手に苦悩し、精神的に虚脱状況の下にあった日本人の手を握り、共に涙の祈りをして下さった。その熱誠に私共は大きな慰めと励ましを受け、未来への希望を與えられました。帰米の前に『戦後の日本は五百年に一度とない伝道の好機にある』と信徒一同の奮起を期待する言葉を残されました。

更に第二回は二年後、一九五一年二月から四月末まで三ヶ月間にわたって賀川伝道と協同して全国を巡回され、一四二回の集会、出席者合計九万六千人、決心者二万人を起こされたのでした。

(続)

アシラムに出席して(一)

大阪市北区豊崎 坂井静子

アシラムへ招かれ、祈りの細胞で折って頂き嬉しいでした。しかし隣の方のために祈るとき、とても緊張してしまいました。日頃の祈りは自分の願いごとのみであったかと反省させられました。また悔改めの祈りの大切さを礼拝の中で示され、自分の信仰を見詰める機会を得たことは大きな恵みでした。それに、私のつたない奏楽をお用い下さったことを光栄に思いました。

第九回バルナバ・アシラム

- ・一九九六年五月二日(木)〜四日(祭)
- ・日野市・ラサール・研修所
- ・主 題 『開かれた扉』ヨハネ一四・二六
- ・特別招待者 新井宏二牧師
- ・定 員 六〇名で締切。三月二〇日迄
- ・会 員 一八〇〇〇円申込と同時に
- ・申込先 〒三九四長野県岡谷市長地小教右神
- ・電 話 〇二六六一二八一〇八八

アシラムの五大原則

- (一) キリストへの明け渡し
- (二) 御言への静聴と立証
- (三) 聖霊の啓導と充滿
- (四) 教会への奉仕と伝道
- (五) 神の国の体験と献身

聖ヨハネによる福音書

D・P・タイタス著 海老沢宣道訳 価一、二〇〇円 一、二四〇円

御国を来らせ給え

D・P・タイタス著 植村俊雄訳 価三〇〇円 千九〇円

インド途上のキリスト

一九八六年一〇月改定版 E・S・ジョーンズ著新訳者 海老沢宣道 価一、九〇〇円 千三六〇円

アシラムの原則と実際

海老沢宣道 著 第三版 新書版五二頁三〇〇円 千九〇円

発行所 アシラム連盟事務局 振替口座 〇〇一〇〇・一・四五五八

日本アシラム四十年記念出版

最新刊・好評◆

今世紀最大の世界的宣教師 スタンレー・ジョーンズ博士著 白川鄭二・飯島庸江共訳

いかに祈るか

祈りの人スタンレーが祈りとは何か、祈りの段階と方法と実例を親切に教えている好著

新書判七〇頁

定価六〇〇円 千一九〇円 発行所 日本クリスチャン・アシラム連盟

◆教会その他の祈祷会で用ゆるのに最適の好テキスト

● 沖縄特別アシュラムの報告 ●

九五年九月十八、十九日開催の日本アシュラム開始四十年記念集會には、沖縄バプテスト連盟、神の教會、キリストの教會、日本バプテスト連盟、日本キリスト教団及び単立教會から計二十六名が参加した。地元から教役者六名、信徒十六名で、超教派の諸行事の狭間に当たり、アシュラム常連が出席できる日程でなかったため少なかつたのは残念である。今回の集會の意義を二・三あげたい。

沖縄アシュラムは十六回目であるが、今までは榎本アシュラムであり、日本アシュラム連盟の活動に就いてはほとんど知らなかつた。

今回のマシューズ博士夫妻の来沖によって、キリストへの全き献身のすばらしさと、救霊への燃えるような情熱を感じ、その背後にスタンレー・ジョーンズ博士の人格の偉大さを覚えた。

アシュラム運動の力点、プログラムの組み方、運営方法などに於いて日本アシュラムと榎本アシュラムの間に相違があり、多少の戸惑いがあったが、根本的な信仰告白である「イエスは主なり」の核心に於いて同一であることが確認され、我らの主が、この日本に於いてすばらしいみ業をし

ておられることを信じ、心からみ名を崇める次第である。二つのアシュラムが対話と協調によって、運動上の相違をこえて行けるなら、相乗効果を生み、神の国の発展のために、著しい成果をあげるであらう。

マシューズご夫妻を当地におくり、また直接ご来援下さった海老沢、大石、渕江の諸先生と通訳の労をとられた高橋牧師に心からお礼を申しあげたい。

(沖縄特別アシュラム事務局長・世界アンテオケキリスト教会牧師・高江州良次)

◎第十七回・連盟全国理事会

六月三日午後四時～六月四日正午

於山崎製パン箱根山荘

◎第四回・アシュラム・セミナー

六月四日午後～六月五日正午

右と同場所にて

スタンレーとアパ・ルーム

ゆかりの地を訪ねる旅

一 来る五月十三日より十二日間

敬愛するスタンレー・ジョーンズ博士創始のアシュラムが我国で開催されてから昨年は満四十年を記念し、また国際聖書日課アパ・ルームの日本語版が創刊されてから今年には満四十五年を迎えますので、この二事業の発祥にゆかり深い米国東部の名所を訪ねる旅を計画しました。どうか

一人でも多くの有志に御参加願いたく、下記要領により御申込みをお待ちしています。

日本アシュラム連盟 アパ・ルーム日本委員会

代表者 海老沢宣道

◆日程表

13日(月) 夕刻成田発ワシントン經由バルチモア着、ホテル泊

14日(火) 終日スタンレーの生家、出席教會、記念美術館、御夫妻の靈園巡回 同ホテル二泊

15日(水) 朝ワシントン市へ、専用車で大聖堂、神学校見学 一泊

16日(木) 朝シカゴ廻りUA機でレキシントン着、車でアズベリー神学校訪問、レキシントン一泊

17日(金) 正午頃AA機でナシユビル市着、市内観光 ホテル泊

18日(土) 午前、午後アパ・ルームの本部その他見学、同市に二泊

19日(日) 朝AA機でナシユビル発、ロス市着、午後観光同ホテル泊

20日(月) 車でクレアモント神学校その他見学と観光 ロス市二泊

21日(火) 朝UA機でホノルル着、午後市内観光 同市ホテル泊

22日(水) 終日自由行動 同市二泊

23日(木) 午前UA機で帰国の途へ

24日(金) 午後成田着、通関、解散

▼参加費(見積り) 三九万円

これには出発前の諸手続費用と期間中の昼夕食の費用を含んでいな

いので、別途数万円が必要です。

▼申込先 西鉄旅行社海外課

〒一〇四 中央区銀座一―二―一

担当者 田中力(碑文谷教會員)

▼詳しいガイドブックは申し込まれ方に郵送します。

アシュラムに出席して(?)

◇校方市東香星 齋藤潤子

集いは、皆様おなじみの方も多く、主にある大家族への里帰りという感じでした。印象深かつたのは祈りの細胞で、互いに祈り合う素晴らしさをひしひしと感じ、今でもお顔を思い浮かべて、祈らせて頂いています。忙しい中にも多くの恵みを受け、感謝の二日間でした。特に神戸の兄弟姉妹が大変な状況の中から出席され、また仮設住宅から来られた姉妹があり、健康と希望が与えられますよう祈らずには居れません。

海老沢宣道の新書

神に就いての黙想

B6判、150頁、価1,300円 ㊦240円

神との生きた対話・交わりを願いつつ綴られた信仰の随想。老熟した著者が現代の教會に問題提起しつつ語りかけるメッセージ。

発売所 キリスト新聞社

取次 日本クリスチャン・アシュラム連盟